

【本田にとって難しいこと】

「おお！君は Hot Willer の本田くんじゃないか！

元気だったか？時々電話位してくれてもいいのになあ。オレはさみしかったんだぞ」

相変わらず調子のいい岡田を前にし、本田は何だかホッとした。

「で、今日はどうした？自分でやっているんだろ？」

「はい…オレなりにやっているんですが、全然ダメなんです。

初めはうまくいくかと思ったんですが…」

「ふむふむ。どうしてだろう。詳しく聞かせてくれ」

「はい…」

本田は、これまでの経緯を岡田に話した。

「お前、何やってんだよ！コンチクショウ！順番がちげえよ！」

岡田は怒鳴った。

「第一お前が社員を信用してねえじゃんか。社員のことを道具としか思っていないじゃん」

「いえ、そんなことはありません」

「いや、そんなことある！ オレの目を見てもう一度言ってみろ！」

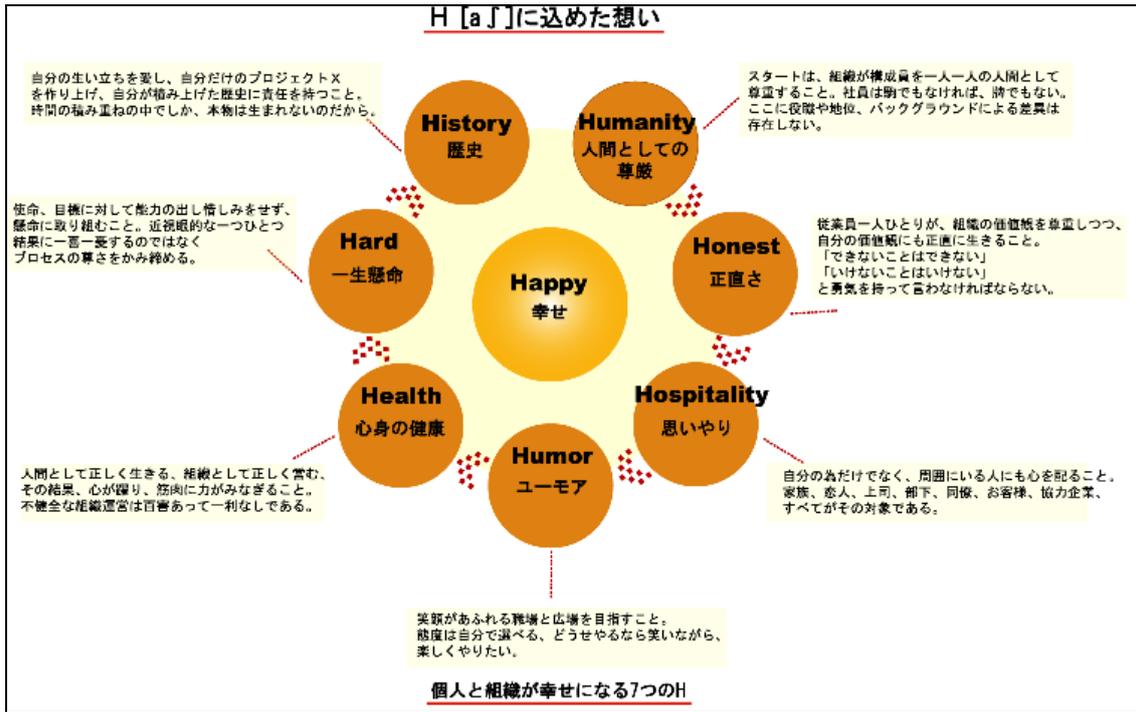
本田は、岡田の飛び出そうなほど本気な目を見ることができない。

「お前さ、平川さんに何て言われたんだよ？

テクニックや行動よりも前に心じゃなかったのか？ホントにダメになるぞ。

本田、『7つのH』を覚えているか？」

「『7つのH』ですか…はい、覚えています」



『7つのH』にも順番があるんだよ。ほら矢印が書いてあるだろ？

よ〜く見てみろ、まずはこれ『ヒューマニティ』だよ。

お前が今無理やりにやろうとしたのはこの『ハード』だろ？6番目だ。

順番が違うんだ。しかも『ハード』の解釈も違う。お前のやり方は無茶すぎるんだよ」

「順番…!? 解釈…!?」

「そうだ、まずは順番が大事だ。順番を間違えると大変な事になる。今のお前がそれだ。

今のお前は、まずヒューマニティから始めなければならん。

きっと今のお前にはきっと一番難しいだろうなあ。

でも、この一歩がクリアできれば、あとは加速度的に進んでいくはずだけだな」

「岡田さん…それ、本当っすか？」

「お前、オレを疑ってんのか？」

「いえ…そんなわけでは…」

「もう1回、アッシュさんに真剣に相談してみたらどうだ？

本当に会社を立て直したいならな…」

「はい…そうしてみます」

そう言ったものの本田は気まずい。

前回、厄介者を追い出すみたいに帰してしまった手前、なんて言って電話をすればいいのか…迷った。

そうは言ってもやるしかない。本田の前に拓いている道は平川だけだ。本田は意を決して平川に電話をかけた。

「こんにちは。先日セミナーをお願いした本田と思います」

「ああ本田さんですか。ご無沙汰しています。その後はいかがですか？」

意外に軽やかな平川の口ぶりに、本田は少し安心した。

(よかったあ。先日のこと悪く思っていないみたいだ)

「あの…実は自分で頑張ってみたのですが、どうもうまくいかないんです。

平川さんが仰っていた『テクニックよりも心』というのが気になって…」

「そうですか。では、一度ご相談にのりましょうか」

「はい、お願いします！」

「今度は、前向きにお願いしますよ」

「も…もちろんです」

平川は完全に忘れていたわけではなかったようだ。

平川との面談。

本田はこれまでにあったことを説明した。

「平川さん、オレはこれから何をしたらいいですか？」

「まずは…信じてください」

「…信じる？」

「そうです。本田さんの社員さんを信じてください。

そして社員さんの想いを真剣に聞いてみましょう。きっとそこから何か拓けますよ」

平川のアドバイスを受け、本田は社員一人ひとりと面談をすることにした。

平川からきつく言われた事を守りながら。

「相手が話している間は、絶対に本田さんが口をはさまないでくださいね」

平川のアドバイスをきっかけに、このあと、株式会社 AAA はいい方向へ向かっていく。

<取材・執筆：物語ライティング>